

淀川水系神崎川ブロック河川整備計画の策定フロー

大阪府河川整備委員会審議

治水
環境
利水

現状の把握
各項目の検討
整備内容の決定

府民意見聴取
住民説明会、縦覧 など

関係機関協議
関係市、近畿地方整備局、近畿農政局 など

河川整備計画の策定

1

淀川水系神崎川ブロック 大阪府河川整備委員会経過

平成15年度

第1回(H15.6.20) 流域及び河川の現況について
第3回(H15.9.29) 流域及び河川の現況について
第4回(H15.11.10) 流域及び河川の現況について
第5回(H15.12.1) 治水計画の考え方について
第6回(H16.2.24) 水資源計画及び治水計画について
第7回(H16.3.29) 環境及び水資源計画について

平成16年度

第1回(H16.6.7) 治水計画について
第2回(H16.8.13) 治水計画について
第5回(H16.12.14) 治水計画について
第6回(H17.2.22) 治水計画について
第7回(H17.3.22) 治水計画について

平成17年度

第1回(H17.6.22) 治水計画について
第2回(H17.7.29) 治水計画について

2

治水計画の検討フロー

第5回大阪府建設事業評価委員会
H17.9.8

資料 10-3

基本とする高水(群)の検討
計画規模の設定

基本とする高水のピーク流量と現況河道流下能力との比較

洪水処理方式の検討
河道改修案
河道改修 + 放水路案
河道改修 + 遊水地案
ダム案

洪水処理方式の選定

計画とする高水流量の設定

治水計画の策定

3

計画規模の設定

河川審議会答申(平成3年12月、平成8年6月)

治水計画の整備目標は、大河川については、100年から200年に1度、中小河川については、30年から100年に1度の規模の降雨を対象とした計画目標のもとに整備を推進する。

大阪府河川整備長期計画(平成8年3月)

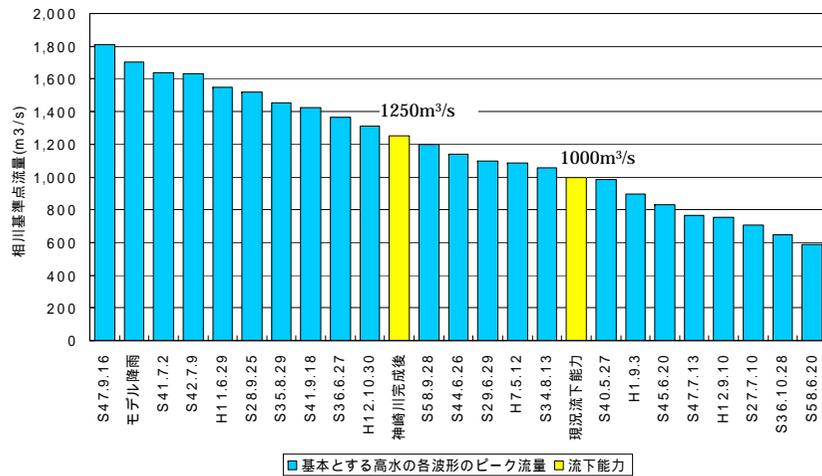
一生に一度経験するような大雨(概ね100年に一度発生する程度)が降った場合でも、川があふれて、人が亡くなるようなことをなくすことを目標とする。

河川砂防技術基準(案)(平成9年9月改訂)

計画の規模は、一般には計画降雨の降雨量の年超過確率で評価するものとし、その決定にあたっては、河川の重要度を重視するとともに、既往洪水による被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定めるものとする。

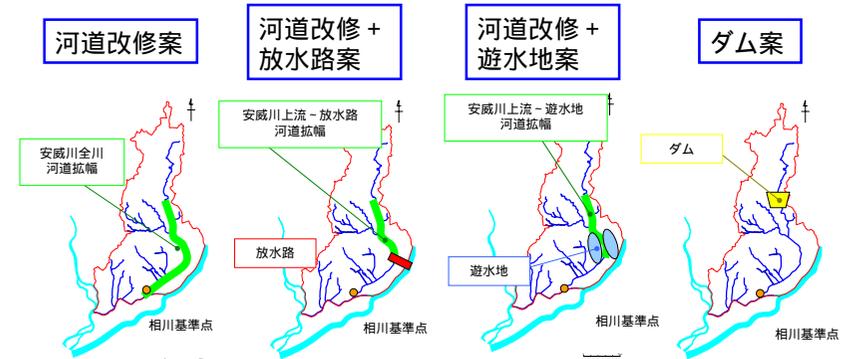
よって、神崎川ブロックの計画規模は(治水安全度)は1/100とする。

基本とする高水のピーク流量と現況河道流下能力との比較



相川基準点の基本とする高水(群)のピーク流量と現況流下能力

洪水処理方式の検討内容



比較検討項目

- 経済性
- 実現性
- 効果発現時期
- 地域への影響(社会面、環境面) など

大阪府河川整備委員会における審議状況の報告

淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

計画規模の設定

流域の重要度を考慮した結果、大阪府河川整備長期目標でもある「1/100」の確率規模(日雨量247mm)で計画する。
(H16.12.14 平成16年度 第5回大阪府河川整備委員会)

洪水処理方式の選定

河道改修案
河道改修+放水路案 → 河道改修+遊水地案 → ダム案
河道改修+遊水地案 → ダム案
ダム案

4案の内、とについては、神崎川本川及び淀川に対し流量の増加があり、広域な地域社会への影響が大きいため実現性が非常に低いことから、洪水処理方式として、とを対象に、社会環境及び自然環境の影響を、さらに詳細に比較検討した結果、「ダム案」を基本に河川整備計画を検討する。

(H17.7.29 平成17年度 第2回大阪府河川整備委員会)

大阪府河川整備委員会における今後の審議内容

淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

治水

- 計画とする高水流量の設定
- 洪水調節計画の検討(ダム規模の検討)
- 支川の洪水処理の検討

利水

- 利水容量の検討(ダム規模の検討)

環境

- ダム周辺を含めた、河川環境の整備と保全に関する検討